

市区町村名	砥部町	担当部署	社会教育課
		電話番号	089-962-5952

1 取組事例名

大学生等の独創力を活用した青少年健全育成事業(とべの里冒険クラブ)

2 取組期間

令和3年度～(継続中)

3 取組概要

令和4年度にクラブ員を募集し、養成した大学生ボランティアリーダーによる「とべの里冒険クラブ」を展開するため、それに先立ち、令和3年度はボランティアリーダーを確保し養成を行った。

○「とべの里冒険クラブ」とは

- ・「とべの里冒険クラブ」は、小中学生の小集団グループ(5人程度)を活動単位として、当該小集団グループ独自の活動を展開する。
- ・活動は、野外活動を中心としグループ毎に企画し展開するが、グループの企画運営及び児童への指導は、教育委員会が養成した大学生等のボランティアリーダー(当該グループ付のリーダー)が中心となって行う。

ボランティアリーダーの養成のため、「砥部町を知る」「砥部焼を知る」「自然を体験し子どもを知る」をコンセプトとして砥部町独自の体験プログラムを実施し、教育委員会は、ボランティアリーダーに対して教養や活動の場を提供する等、側面からバックアップを行った。なお、ボランティアリーダーの募集及び養成については、令和4年度も引き続き行う。

4 背景・目的

少子高齢化を伴う人口減少が進んでいる。個人主義の台頭や生活の多様化等によって地域コミュニティの低下とともに我が町を知らない子どもが増えている。

また、子ども達は、豊かな社会の実現や近年の情報機器の発達によって生活スタイルは着実に変化し、家庭や地域或いは遊びの中での対話や多様な体験の減少に伴い社会参画意識が低下している。

これらの課題を解決するため、大学生等の独創力を活用し次代を担う砥部の子ども達の健やかな育ちを、未熟で素朴な教育によって応援する。

5 取組の具体的内容

令和3年度については、公募で集まった大学生等のボランティアが、地域の小中学生を対象とした地域の魅力を感じることができるような体験プログラムを企画し、実際に運営できるよう、地場産業体験や野外体験活動などのボランティアリーダー養成講座を実施した。

令和4年度は、令和3年度に養成した大学生ボランティアリーダーの企画・運営による「とべの里冒険クラブ」を展開、取組を継続させるため、ボランティアリーダーの募集及び養成も引き続き実施。

【令和3年度事業実績】

- 1 ボランティアリーダー参加者：大学生 23人（実績値）
- 2 ボランティア募集時期：5～6月
- 3 事業実施日・内容
 - ①7月17日（土） 文化財などを見学（町内巡り）
 - ②8月 7日（土） 砥部焼作り（講義、形成）
 - ③10月2日（土） // （絵付け）
 - ④10月16日（土） 野外デイキャンプ（オリエンテーション、ロープワーク、タープ設営など）
 - ⑤11月20日（土） // （ロープワーク、テント設営、食事作り、ネイチャーゲームなど）
- 4 ボランティアリーダー養成数：23人（実績値）

大学生等の独創力を活用した青少年健全育成事業
(とべの里冒険クラブ)

生涯学習の推進

子どもの

- ・ 自立意欲の向上
- ・ 社会参加意欲の向上
- ・ コミュニケーション能力の向上
- ・ 体力の向上
- ・ 自主性の向上
- ・ 探求心の向上
- ・ 異世代間の人間関係の構築

若いマンパワー・多様な
マンパワーの関わり

- 医療技術大学
- 愛媛大学
- 松山大学 等

★ 地方創生の推進

シビックプライドの醸成 関係人口の確保 定住の促進 等

～ 令和4年度以降(イメージ) ～

活動班

(とべの里冒険クラブ)

小中学生 約5名

リーダーが中心となった自主的な活動展開

ボランティアリーダーの関わり

(子どもの成長に応じた多様な体験)

キャンプ トレッキング
文化財巡り陶芸体験 料理
スポーツ 昆虫採集 等

リーダーのスキルアップ研修

バックアップ(砥部町社会教育課)

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・ 砥部町独自の資源を最大限に活用しながら、行政主体でなく大学生と子ども達が主体となって、地方創生の視点をもって事業を展開。
- ・ 大学のサークルの意義と大学生等の独創力を活用した青少年健全育成事業（とべの里冒険クラブ）の目的をマッチングさせることで、ボランティアリーダーの確保をはじめ事業の展開を円滑に実施。

7 取組の効果・費用

- ・ 令和3年度事業では、参加した大学生のほとんどが町外在住の学生で、当初は砥部町の認知度が低かったが、事業を通して砥部町の自然や文化等の魅力に触れることで、砥部町を理解し、愛着を持っていただくことができ、23人のボランティアリーダーを養成することができた。
- ・ 野外体験活動などの講座により、翌年度から実施する町内の小中学生を対象とした生涯学習に関連する事業で生かすことができる技術や知識を習得することができた。
- ・ 子ども達の身近な大人(大学生)を活用することで、容易に相互理解が進み円滑な事業展開が期待できる。そのことによって、子ども達は主体的・対話的で深い学びが実現し、大学生は子どもと触れ合うことで子どもへの理解が促進され少子化に歯止めがかかる。大学生の卒業後においても砥部町との関係を保つことで、交流人口の増加に繋がる。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・ 安定してボランティアリーダーの確保。
- ・ 多様な分野の人的資源を確保し、当該人的資源を活用した事業展開を継続すること。
- ・ ボランティアリーダーの自主性を最大限に引き出すための活動拠点を整備すること。

9 今後の予定・構想

- ・ 行政とボランティアリーダーとが良好な関係を保ち対等な立場で議論し継続的に事業展開を行う。
- ・ 参加児童がメンバー化しクラブとして成熟できるよう、町がバックアップを行う。
- ・ ボランティアリーダーは、研修等によってスキルアップを図り、そのスキルを活動に生かす良好なサイクルを確立させる。
- ・ 子どもの自立意欲、社会参加意欲、体力、コミュニケーション能力等の向上を図る。
- ・ 参画する大学生を砥部町の関係人口として確保し、卒業しても関係を活用してグローバルな事業展開を図る。
- ・ 令和4年度以降においては、事業を展開する中で砥部焼業界をはじめ多様な分野の人間と関係を創り産官学連携による生涯学習の基盤を築く。

10 他団体へのアドバイス

- ・事業を円滑に実施するためには、大学のボランティアサークルのニーズ並びにサークルに所属する大学生等の独創力を事業にマッチングさせる必要がある。

11 取組について記載したホームページ

- ・なし